

日本科学者会議宮崎支部事務局連絡先 : 〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1

宮崎大学教育文化学部 野中善政 気付

電話/ファックス 0985-58-7511、電子メール [miyazaki@jsa.gr.jp](mailto:miyazaki@jsa.gr.jp)

郵便振替口座 02010-4-15455 加入者名 日本科学者会議宮崎支部

1. 「2. 11 憲法と平和の集い」－(牧村)
2. 2月7日「読書会」報告－(野中)
3. 「6. 11 憲法と平和の集い」－(牧村)
4. 2007年度第3回支部幹事会の案内－(野中)
5. 第41回支部定期大会の案内－(野中)

1. 伊藤千尋講演会の感想 (08/2/11 宮崎、第63回憲法と平和を考えるつどい)

2008年2月11日 10:00-12:00、会場：宮崎市中央公民館 出席者数 150名

第63回憲法と平和を考えるつどい「世界からみた平和憲法」、講師：伊藤千尋さん（ジャーナリスト、朝日新聞社）、主催：日本科学者会議宮崎支部・宮崎民主法律家協会

参加者の感想

■自分のおもいを自分の形で表現してよいのだということを確認できました。地域活動の中で、停滞気味で、今まで、「まわりの人たちがついてきてくれないヨー」と悩んでいました。60年安保の生き残りの私たち、革新都政を実現させたことをもとにがんばります。(女、64才)

■終始、千尋さんの話に感動しておりました。9条というとすぐに軍需、自衛隊の話になりがちですが、コスタリカのように私たちは「愛される権利を持っている」という小学生でもわかるような単純なことと結びついています。身近なことをして、私たちを変えていくんだという勇気をもらいました。ありがとうございました。(女、21才)

■コスタリカのお話、とても感動しました。米国でもチェコでも一人の女性の勇気が多くの人々の心を動かす。私たちも一人一人が行動する勇気をとちたいたいのだと痛感しました。伊藤先生の今日のお話、一人でもたくさんの人々に聞いて欲しいものです。お忙しい先生でしょうが何回でもお聞きしたいお話でした(女、68才)。

■私たちの知らない、目からうろこの落ちる話が感

動的であった。コスタリカの国家哲学が私たちの平和運動に大きな示唆をいただいた。問題の本質を深く考えることのできる材料が提供されている。ありがとうございます。広い視野をさしだされた感じになりました。まさに「世界からみる」でした。(男、76才)

■親しみのもてる話法で、実体験でのお話は説得力があり、感動することばかりでした。もっと伊藤さんの話が聞きたかった。そして、つぎはもっとたくさんの人を誘って(女、58才)

■内容が具体的でとてもわかりやすかったです。ありがとうございました。(女、59才)

■スピーディーでユーモアのある語り口に惹きつけられました。実に平易な言葉で世界の権利意識を語り、非常に興味深い展開でした。伊藤さんの人間的魅力に印象づけられました。(男、74才)

■とてもよかったです。元気が、勇気が出ました。行動が必要であると思いました。(女、60才)

■目からウロコのお話しに涙が出るほど感動しました。一国民として日本の世の中みつめていきたい。(女、59才)

■有意義なお話しでした。一人一人の自立を改めて考えます。宮崎市のコミュニティー税に関してもっと行動が大事と思います。(女、60才)

■久しぶりに勇気をもらった話だった。いかに日本がアメリカべったりかが再認識された。どんどんと軍靴の音が大きくなってきた。闘わねばと思う。(男、71才)

■平和に対する思いを一層強くしました。次代を担う若い世代の参加が少ないのが残念です(男、72才)。

■ありがとうございました。目からウロコがハラハラとおちました(女、48才)。

■100点満点、いや200点に近い(男、76才)。

■世界から見る視点がすばらしい。個人としてもっと成長しなければいけないと思った。(男、70才)

■期待していたとおりというか、それ以上にすばら

しくて元気が出ました。ぜひぜひまた宮崎でおはなししていただきたいと思います。(女、56才)

■伊藤さんが説く「輝いて生きる」の“輝く”という意味が、やっと解けたような感じがします。つまり、一人一人が、愛され、自立して生きられるような、自主・人権・民主主義の平和な社会を旨として、今できることを一人一人が自立して行動することだ。この平和は、安住すればガラス細工みたいに壊れ、日々の努力によってつくるものだという。ありがとうございました。(男、66才)

■元気が出てきました。あきらめずすこしずつまたがんばっていこうと思います。(自主・人権・民主主義)の国家をめざして、まず自分から、自分のまわりから、かわっていきけるように！(女、50才)

■憲法を暮らしにいかす運動の意義に確信をもちました。(男、74才)

■最高！ 平和の問題を国家の視点からでなく、個人(人間)の視点でとらえることの意味、大切さ、の話しが強く心に残りました。(男、57才)

■世界の、個人の 力強さを感じる講演でした(男、39才)

■政治が悪い、経営者は自分たちの利益のみ追求していると批判してばかりいたが、自分が行動を起こさなければ自分も彼らと同じレベルなんだとつくづく気づいた講演でした。よかったです。ありがとう。(女、68才)

■コスタリカの国づくりの考え方には感激しました(男、58才)

■わかりやすい、はぎれの良い語り口でした(女、66才)

■とてもためになる講演でした。日本はアメリカだけでなく他の良い国を見習っていけばいいと思いました。(女、20才)

■大変良い話しをきかせていただきました。ありがとう。(男67才)

■一人一人の行動、責任で変化が生まれるということで勇気づけられるお話しでした。(男、70才)

■具体的な話しの積み重ねで非常に説得力がありました。基本的人権＝平和、まったくその通りです。勇気づけられました(男、72才)

■世界の話しから今の日本まで楽しいお話しでした。とくにコスタリカの現状には感動しました。(女、49才)

■大変素晴らしく目の覚めるような講演でした。じわじわと、意識の変改が自分の中では起きています。ただ、中南米やヨーロッパを模倣しようと思っても現実的には日本では難しいと思うので、残念ながら、正論や理想論に終わってしまいそうです。日本の社会構造や日本人の気質などから違う方法をあみだしていく必要があるのでは。(女、35才)

■時間の経つのも忘れて聴き入った。内容も面白く、興味のあるEUの意義にも触れられて、感銘深かった。(男、77才)

■目からウロコ。九条の重さ、一人一人が認識すべきです。まず私が友人と九条を話題にしたい。(女、67才)

■感動！今生きているときに、生きる力を失っていたので良かった。(女、53才)

■すばらしい講演、久しぶりでした。ありがとうございました。(女、69才)

■たいへん勉強になりました。日本のジャーナリストのあり方について改めて考えさせられました(男、60才)

■平和を考える時の出発点が「基本的人権」「一人一人が自立して生きる」ということのコスタリカの考えの話しには感動した(男、68才)

■数々の???と想いの片鱗がつながった気がします。先日見た「六ヶ所村ラプソディ」という映画の中で「中立」は施設稼働への賛成意見だということに気がついた・・・というシーンがありました。声をあげなくてはならないと思います。(女、52才)

■すばらしいお話しで憲法をどう日常の暮らしの中で語るかということをもっと工夫していくことの大切さを学んだ。(女、70才)

■非常に具体的で、説得力のあるお話でよかった。世界の視点で現在が見えた思い。日本で生きる一人の女性として自分の思いを表現していく勇気をもらった。(女、67才)

■テレビ、新聞による情報しか私にはありませんが、自分の足と目で世界のポイントをめがけて住民の目線で実態を知る。これが出来るジャーナリストの方の話しが聞けたことがとてもありがたいと思いました。戦争による平和は望めないと思いますが、やられたらどうするか、またその防止策で意見が分かれます。でも確信をもって対話の手段による実績の話聞き自信をもてました。(女、65才)

■ コスタリカの哲学（人は誰でも愛される権利がある（基本的人権）、国民一人一人が大切にされるように国の仕組みを変えてゆく。愛されていないと感じたら訴える権利があり、そのことで社会全体をよくする。平和国家の役割＝まわりの国を平和にしよう。自由・人権・民主主義を広げよう。）これには目からウロコです。その他の国の話も聞き元気が出る感動的な話でした。（男、55才）

■ 目からウロコ。実際に取材された強み、生きた言葉に感動。（男、71才）

■ 世界的視野で豊富な話しが聞かれ、未来への確信と元気がわきました。（女、68才）

■ 大変うれしい話をきくことができました。コスタリカにはぜひ行きたい。チェコのマルタさんの話はとくに感動的でした。バーバラ・リーさんの話も感動的でした。ありがとうございました。自分もがんばろうと思います。ポジティブに。（男、48才）

■ 外国のことがよくわかりました。知らないことばかりではずかしくなりました。コスタリカに行ってみたいと思いました。（女、72才）

■ 米国からの自立という世界の流れのお話に勇気を与えられました。運動発展の組織者、伊藤千尋さん！ありがとうございました。（男、66才）

■ 決して失望するな、あきらめたら向こうの思うつぼだ、未来はこちらにある。大切なことは、一人一人が自分の出来ることを積み重ねていくことだと多くの事例を引いて説く伊藤千尋さんの渾身からの講演（訴え）に、「未来がその胸中に在るもの、之を青年という」という明治の自由民権運動家・植木枝盛の言葉を重ね合わせました。しばしば閉塞感と失望感に落ち込む自分を元気づける話でした。（男、67才）

---

## 2. 2月7日「読書会」報告と今後の予定

読書会の趣旨は、先に事務局ニュース等でお知らせしましたように、「日本の科学者」に掲載された論文の講読と議論を通し、政治、経済、学術、社会の今日的課題について、JSA会員相互の理解を深めようとするものです。報告者、参加者は会員、非会員を問わず、広く一般に呼びかけています。2月7日には、2008年1月号（Vol. 43）に掲載された2編の論文1.「大学への競争的環境はどのようにして持ちこまれたか」和田肇（名大：労働法）

2.「競争的環境下の北海道教育大学における再編―「差異化」の虚構」宮田和保（北海道教育大学）を採り上げ、今年度第1回の読書会を開きました。報告者2名を含め10名の参加者があり、参加者1名から下記のような感想が寄せられています。今後の読書会のテーマとして、(1)地球環境問題（特に地球温暖化）、(2)食料問題を予定しており、地球環境問題（2007年12月号、Vol. 42）について読書会を5月に計画しています。

---

### 読書会の感想

最初に、お忙しい中、レジメをご用意いただいた平野先生、上條先生にお礼申し上げます。上記2論文を詳しく読んだわけではありませんが、両先生の解説と参加者のお話を聞きながら感じたことを述べます。読書会の中で、国立大学が今日の状況に至るターニングポイントが約20年前に遡るのだということが改めて認識できました。1990年代の初めにソビエトの社会主義体制が崩壊し、全世界が資本主義（市場経済）の枠内での経済競争に突入しようとする時代でした。グローバル資本主義の経済競争に勝つためには、不断に新商品を開発する必要があり、商品開発の前提となる知識、情報、教育の生産基地としての役割を大学に求める要求が一層、勢いを増すのは「時代の流れ」であったと言えます。

「時代の流れ」と言われると、まことに抗論しにくいですが、歴史を顧みれば、旧時代の「常識」が新時代の「ナンセンス」となった事例も多いことにも気づきます。例えば、第二次大戦時の日本海軍は大艦巨砲による艦隊決戦を基本戦術とし、日本近海で敵方艦船を待ち受け撃破するという発想に立っていたとのことです。しかし、レーダー、航空機、オペレーションズ・リサーチの登場で、この戦術は全く的外れとなったわけです。現在の文教政策においても似たような錯誤が繰り返されていないだろうか。現在、大学に「競争的環境」が持ち込まれ、教員を馬車馬のように管理しようとする動きが強まっています。しかし馬車の行く先について考えない大学は、外見はどうあれ、少なくとも、そこで学ぶ者にとって果たして大学と言えるのかどうか。未来は不確定であり、今日の常識が明日のナンセンスとなる可能性も予測し得る自由かつ柔軟な発想が育まれるシステムこそ、学ぶ者が大学に求める本来の機能で

はないだろうか。

北海道教育大学の再編は、運営費交付金削減政策の下で、分校の「差異化」を選択肢とし、教員の削減と同時に、教育目標の明示、職業人養成機能の強化を図ったものと考えられるが、この背景に文科省の方針—教育大学の師範学校化—があると著者は論じています。かつてアメリカ教育使節団の指導の下で、戦前の師範学校制度が否定され、小中高教員養成の開放制—大学における教員養成—が布かれたことから、「師範学校化」とは、一般教育、強いては科学的・合理的批判精神の涵養の軽視と道徳教育・実用教育の強化を意味するものと思われます。これに関連し、教員養成審議会の答申—新たな時代に向けた教員養成の改善方策について—には、教員に求められる資質能力として、「地球的視野に立って行動する資質能力」、「変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力」が謳われており、必ずしも「師範学校化」の意図は読み取れないとの指摘が報告者からなされ、大いに参考になりました。答申に言う「問題解決能力・論理的思考力」が科学的・合理的批判精神の涵養と切り離せないとすれば、答申は「師範学校化」の方向と矛盾するように思われます。審議会答申が首尾一貫した教育理念になっていないとすれば、「国民は政府が提示した課題を解決する責務を負う」が、「課題（政策）そのものへの批判は抑制されるべき」という発想が日本社会に根強くあるためではないだろうか。このような意図が答申に隠されているとすれば、教育大学の「師範学校化」の方針と矛盾しないし、結果的に、多くの教員が、大学の教育・研究機能がさらに弱体化した、と感じる再編（学生の感想は分からない）が十分な議論なしに決定されたことには、大学当局が「上の方針は論理的思考の対象とならない。方針を前提に問題解決を図り、変化の時代を生きること」との立場に立ち、「師範学校化」に無批判に追随したと断じられても仕方のない面があると感じられた。

### 3. 第64回憲法と平和を考えるつどい

憲法を活かして格差・貧困の根を断つ・・・9条+25条の視点

日時：2008年5月3日(土)10:00-12:00

場所：宮崎市中央公民館3階大会議室

講師：二宮厚美先生（神戸大学）

参加費（含む資料代）500円

講師プロフィール：労働・生活、社会福祉問題の我が国第一級の研究者。2007年8月出版の「格差社会の克服」（山吹書店2520円）は格差・貧困問題の克服を考える上で必読の好書。母親大会はじめ各地の集会で講演し、革新に迫るすどい現状分析とその克服への問題提起では定評がある。

### 4. 2007年度第3回支部幹事会

日時：4月24日(木)17:30～

場所：教育文化学部西棟2階219

議題

1. 5月3日「憲法と平和の集い」について
2. 読書会「地球環境問題」について
3. 4月24日支部幹事会について  
2007年度活動報告
4. 5月17日支部定期大会について
5. 会費納入状況
6. 事務局ニュース
7. メーリング・リストの作成
8. そのほか

場所：宮崎大学工学部中会議室（予定）

議題：第41回JSA宮崎支部定期大会議案の検討など

### 5. 第41回JSA宮崎支部定期大会

日時：5月17日(土)16:00～18:00

場所：レマンホテル2階会議室

議題

- (1)2007年度活動報告
- (2)2007年度決算報告
- (3)2008年度活動方針
- (4)2008年度予算案
- (5)2008年度役員
- (6)第39回定期大会（東京）議案書
- (7)定期大会代議員選出

大会終了後に懇親会があります。

会場：レマンホテル1階「ぼくと」、会費3500円程度

会場案内：レマンホテルフロント、TEL 53-1131